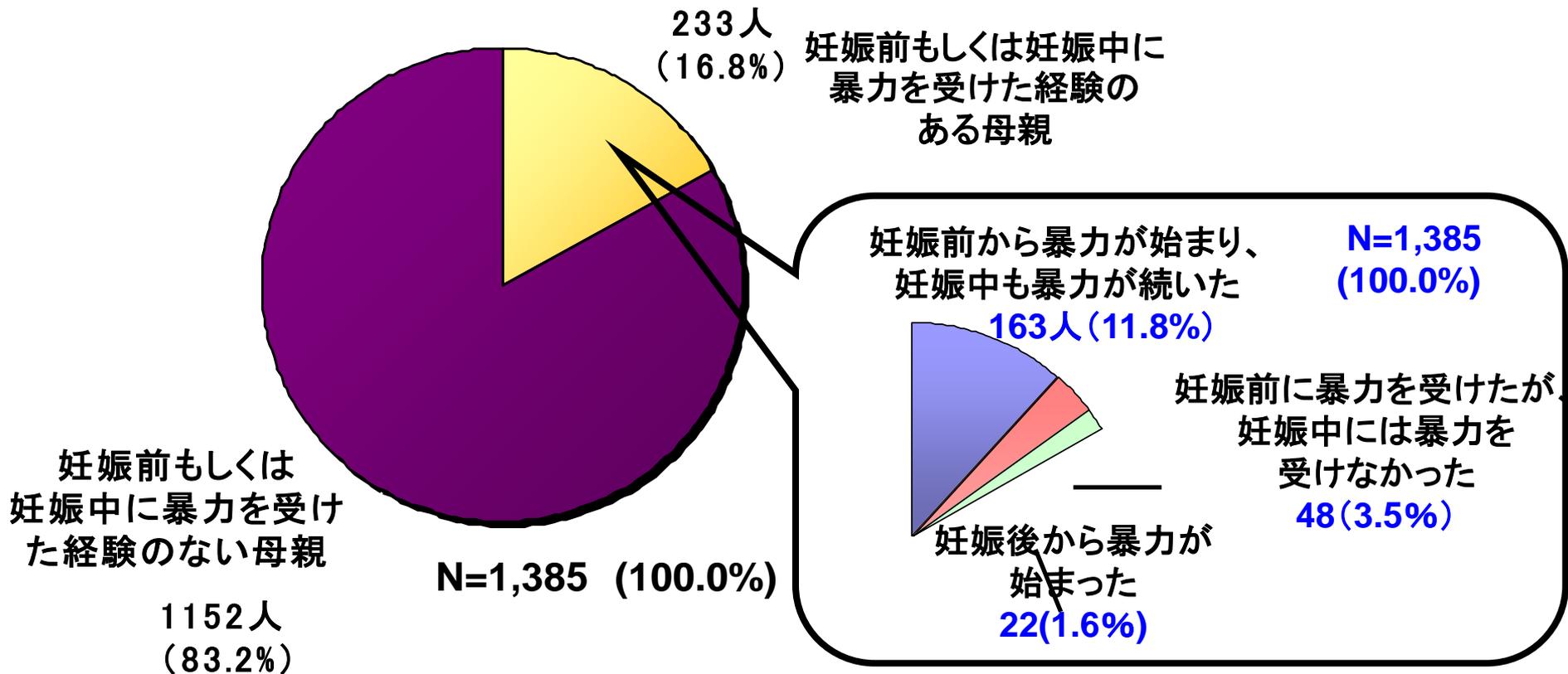


**ドメスティック・バイオレンス（DV）被害
を受けている女性は、どのような思いを抱き
ながら妊娠～産後を過ごしているのか？
DV被害からの回復のプロセス**

静岡県立大学 看護学部
藤田景子

妊娠～産後期間におけるDV被害割合

妊娠前もしくは妊娠中にDVを受けていた
母親は16.8% (約6人に1人がDV被害者)



DV被害女性の被害に対する認識の変化のプロセス

DV被害女性の被害に対する認識の変化のプロセスとして、以下の4段階が見受けられた。

段階1:
<家族維持のためにDV被害の認識を意識下におしこめている>

[家族を維持するために夫に期待する]

[私の存在を否定する周囲の意識]

[アンビバレントな感情を抱えたままDVの関係を生きる]

[力をからめとられ殻に籠る]

段階2:
<夫への期待が失望に変わりDV被害を認識していく>

[DVに気づくきっかけに出会う]

[自分が否定される環境でにっちもさっちもいかない]

[夫へのかすかな期待がゆらぐ]

段階3:
<アンビバレントな感情を抱えたままDVの関係を出る>

[DV被害を相談する]

[DVの関係にとどまる]

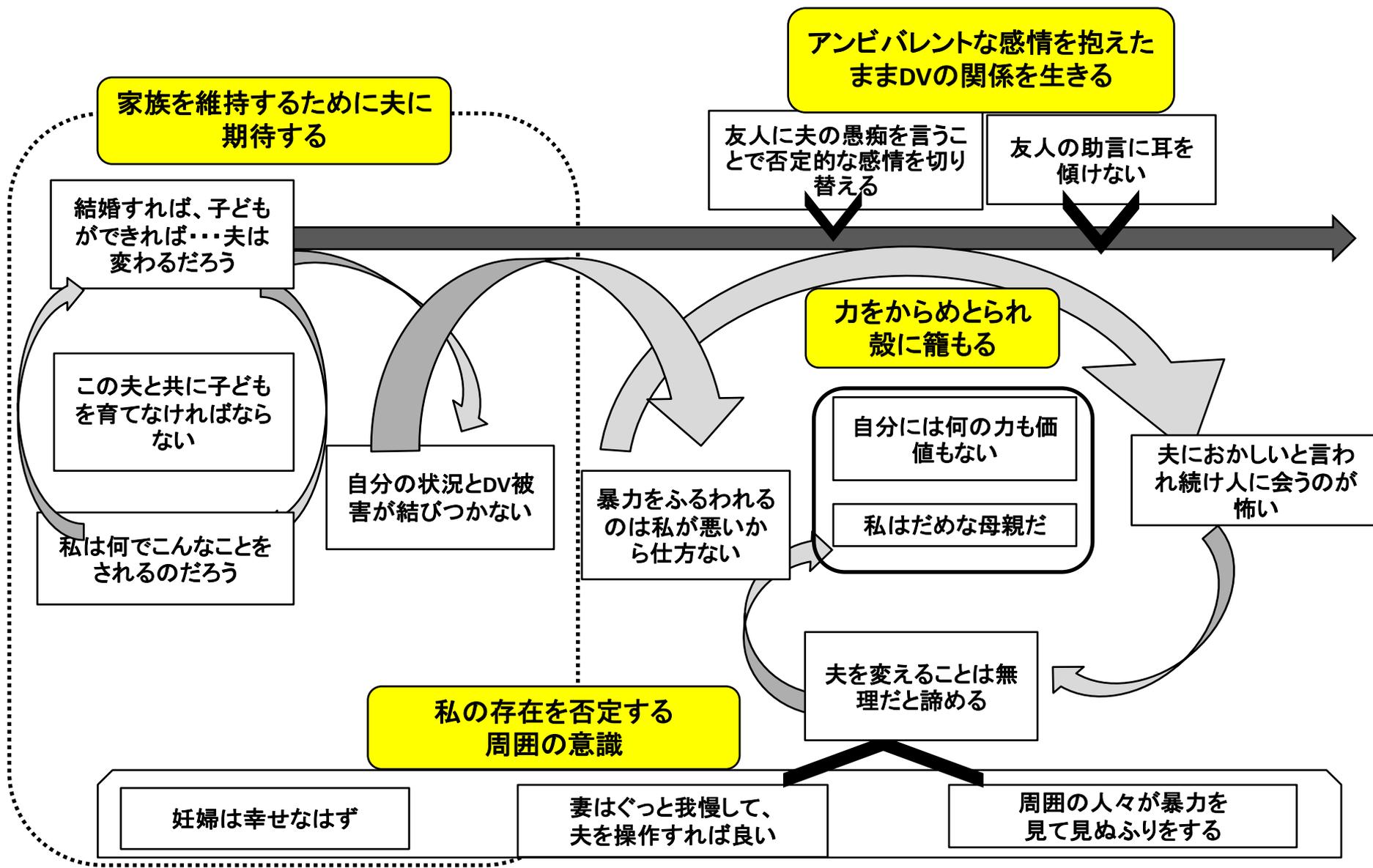
[家族を維持しようとする考えが崩れ家を出る]

[自分のとった行動が良かったのか悪かったのか揺れる]

段階4:
<DVの関係から心身ともに出る>

[自分の力を取り戻す]

段階1: <家族維持のためにDV被害の認識を意識下に押し込めている>



段階1: <家族維持のためにDV被害の認識を意識下に押し込めている>

〔家族を維持するために夫に期待する〕

【この夫と共に子どもを育てなければならない】

やっぱり出産で、希望に満ちたものじゃないですか。生まれてくるのは楽しみにしてるし、その場で別れようって言う頭はないですよ。やっぱり。子どもを生むっていう前提なのに、別れようっていう前提で子どもを生むって言う人って普通いないじゃないですか。うまくやろうと思ってるのであえて相談をしようって思わないんですよ

(Wr)。

段階2: <夫への期待が失望に変わりDV被害を認識していく>

夫へのかすかな期待が揺らぐ

夫からの暴力は、私だけの
問題ではないと気づく

夫へのかすかな期待が
失望に変わっていく

夫と物理的距離をとることで
夫が悪いことに気づく

私が生み育てる
子どもの存在を感じる

DVに気づく
きっかけに会う

医療機関のDVのポスターや
チラシを見てお見通しを感じる

子どもの様子が
おかしいと気づく

DV以外の悩みを相談機関に
相談している中でDVを知る

段階2: <夫への期待が失望に変わりDV被害を認識していく>

[DVに気づききっかけに出会う]

【医療機関のDVのポスターやチラシを見てお見通しとを感じる】

(入院中のトイレの中でDVのポスターをみて) たぶんDVを知ったのは、そこだと思います。私びっくりして。お産なんて、一番女の人が主役で、楽しい事なのに、こんなところで暴力って全然そぐわないじゃないって。・・・でも、トイレで毎回見ますでしょそのポスター。そしてら・・・チェック項目にいっぱい該当することがあったので・・・だんだんそのポスターを見てる間にね、病院でよくわかってるねんな～って思いました。・・・でもトイレから一步出ると(言えなかった)(Wb)。

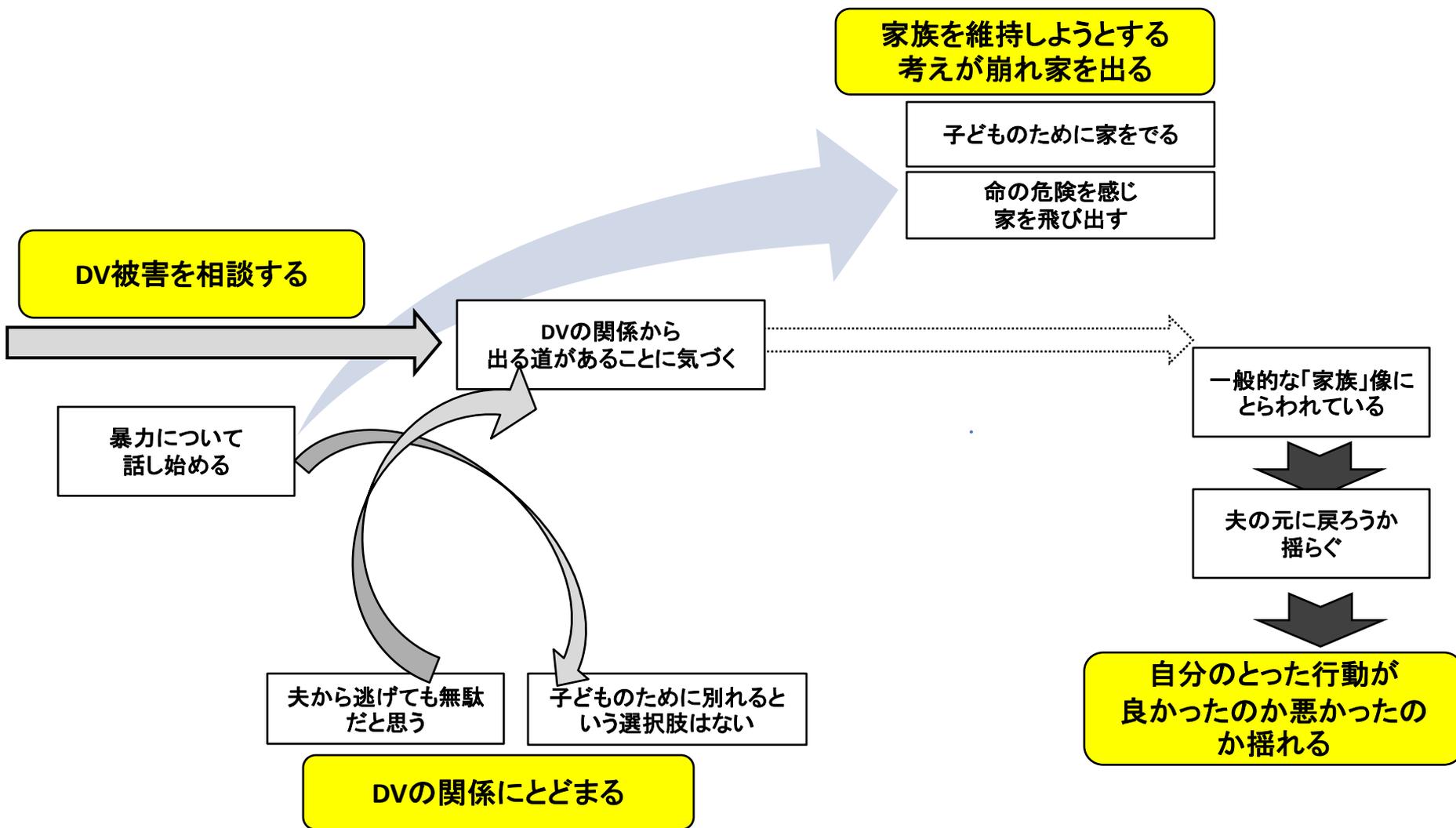
医療機関という公の場にDVのポスターが貼ってあることは、他の人も暴力を受けているのかもしれないと気づき、夫から暴力をふるわれるのは、【私だけの問題ではないと気づく】きっかけになっていた。

[夫へのかすかな期待が揺らぐ]

【夫へのかすかな期待が失望に変わっていく】

生まれる時も私ね、もう最後はテストしてみたいですね。夫を。・・・出産するところ(に立ち会ったら)・・・大変なんやとかそういうことわかってくれないかなっていう気持ちがあって。・・・(でも)夫が全ったく出産に興味を示さなかった・・・夫との関係は何にも変わらない、どうしようって焦り(Wb)。

段階3: <アンビバレントな感情を抱えたままDVの関係を出る>



段階3: <アンビバレントな感情を抱えたままDVの関係を出る>

〔家族を維持しようとする考えが崩れ家を出る〕

【子どものために家を出る】

自分が助かりたいっていうのはあんまりなかったんですよ。自分に価値を見出してないの、夫のためにとか子どものためについてというのが一番あって。そこで…子どものためには父親いないほうがいい場合もある、っていわれて…出るのがみんなのためなんだって思えたときに、すごい前向きに家を出ようと思ったんですよ(Wr)。

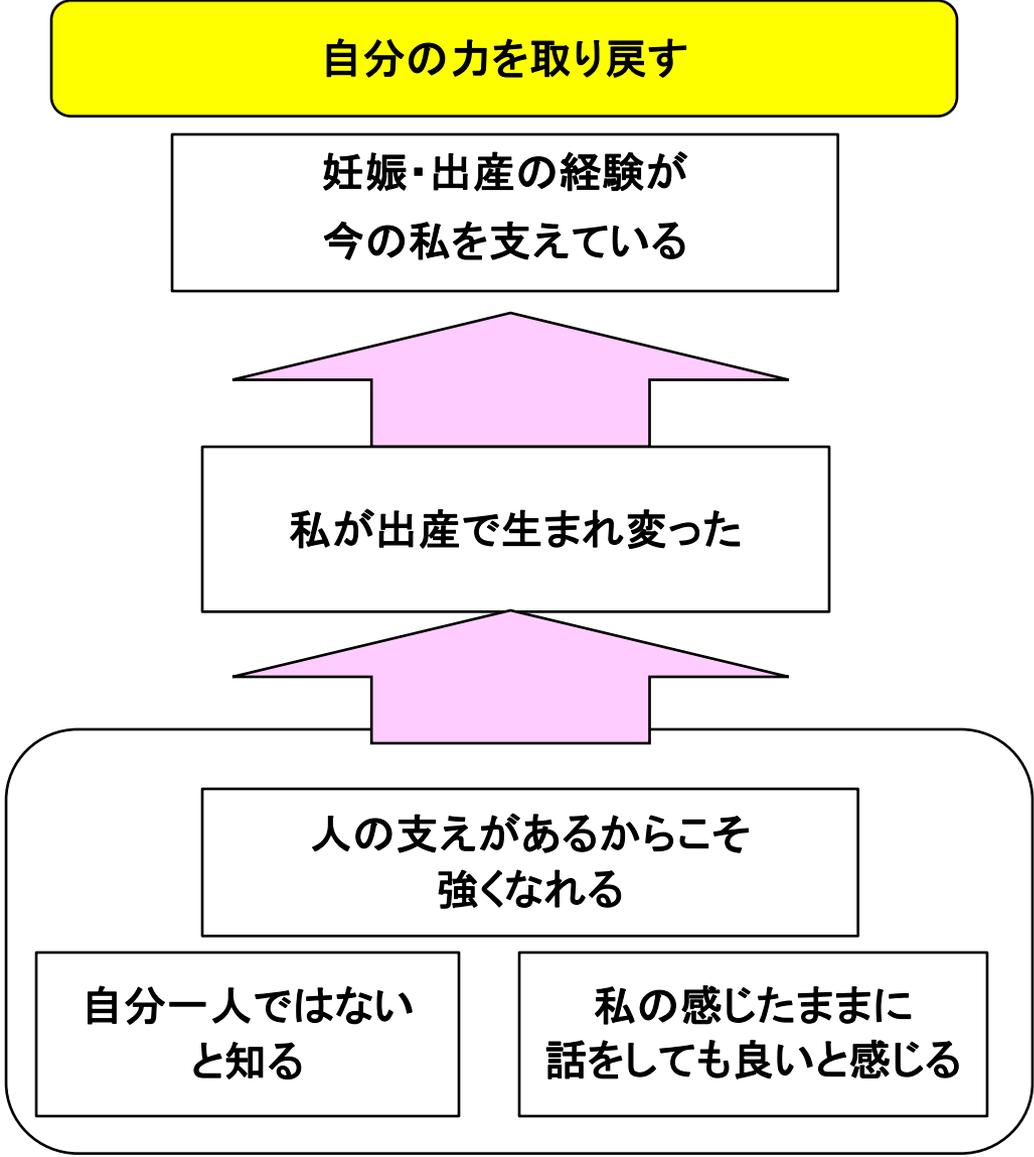
自分への暴力は過小評価したり、なんとか我慢しようとしていた女性であったが、自分の子どもが自分と同じように夫の暴力の被害に遭う現実を目の当たりにすることで、「自分の問題だけでは済まされない」と家を出る行動を起こしていた。

〔自分のとった行動が良かったのか悪かったのか揺れる〕

【夫の元に戻ろうか揺らぐ】

家出てきたけれども…父はやっぱね、いくらB(子ども)が殴られる(首を絞められる)っていても、昔から子ども殴る親はいるんだから、この子にお金の苦労させるのって言って、帰れって、何度も帰れって言われて。で、私もすごい揺れてたんですよ。…家に戻って何とかかなるかなと思う気持ちもどこかにあった(Wb)。

段階4: <DVの関係から心身ともに出る>



段階4: <DVの関係から心身ともに出る>

〔自分の力を取り戻す〕

【人の支えがあるからこそ強くなれる】

Npさんがいつでもここに帰ってきたらいいっていうのは、本当に今日は嬉しかった。だから人の支えがあるからこそ強くなれたし。生きていく自信ですよね(Wp)。

【妊娠・出産の経験が今の私を支えている】

お産はやっぱり一大イベントだったので、その時のことを思い出すと、どんなに辛いことがあっても、子どもを産めたんだから、私には人生の全部をなげうってでもいいと思うほど一大イベントがあったんだから頑張れると思いますね。私の支えになってます(Wq)。

DV被害を受け続けることで、力を奪われ無力化させられていた女性は、他者の支えを得ることや、自分自身の持ちうる力を感じることで孤立から抜け出し、生きる自信となっていた。

DV被害からの回復プロセス

DV被害を認識していない段階から、DVの関係から心身共に段階への

《自分らしさを取り戻していくDV被害からの回復のプロセス》

妊娠～産後の時期におけるDV被害女性の認識の特徴：

- 妊娠期にはDV被害を認識しづらい。
- 妊娠すれば、子どもが生まれればと、夫の言動が変わることを期待し、多くのDV被害女性が、出産は夫が変わるチャンスと捉えていた。
- DV被害女性は、産科では、“妊婦＝幸せ”と、“一般的な家族の在り方”といった価値観が漂っていると感じており、自分とのギャップに苦しんでいた。



- DVを受け始めてからの期間が短い。
- 家族を維持させなければならないという思いが強い。
- ライフイベントに際し、夫が変わることを期待しやすい。
- 周囲の雰囲気、自分も幸せであると思込込ませしてしまう。

妊娠～産後早期の時期は、女性がDV被害を認識しづらい、もしくは、認識していても行動を起こしづらい構造がある